



# LOTUSプログラム 2026年度 事業概要・募集説明

- インド若手科学頭脳循環プログラム(LOTUS Programme)
- 先端共同研究推進事業(ASPIRE)招へい型

2026年 3月



科学を支え、未来へつなぐ

**科学技術振興機構**

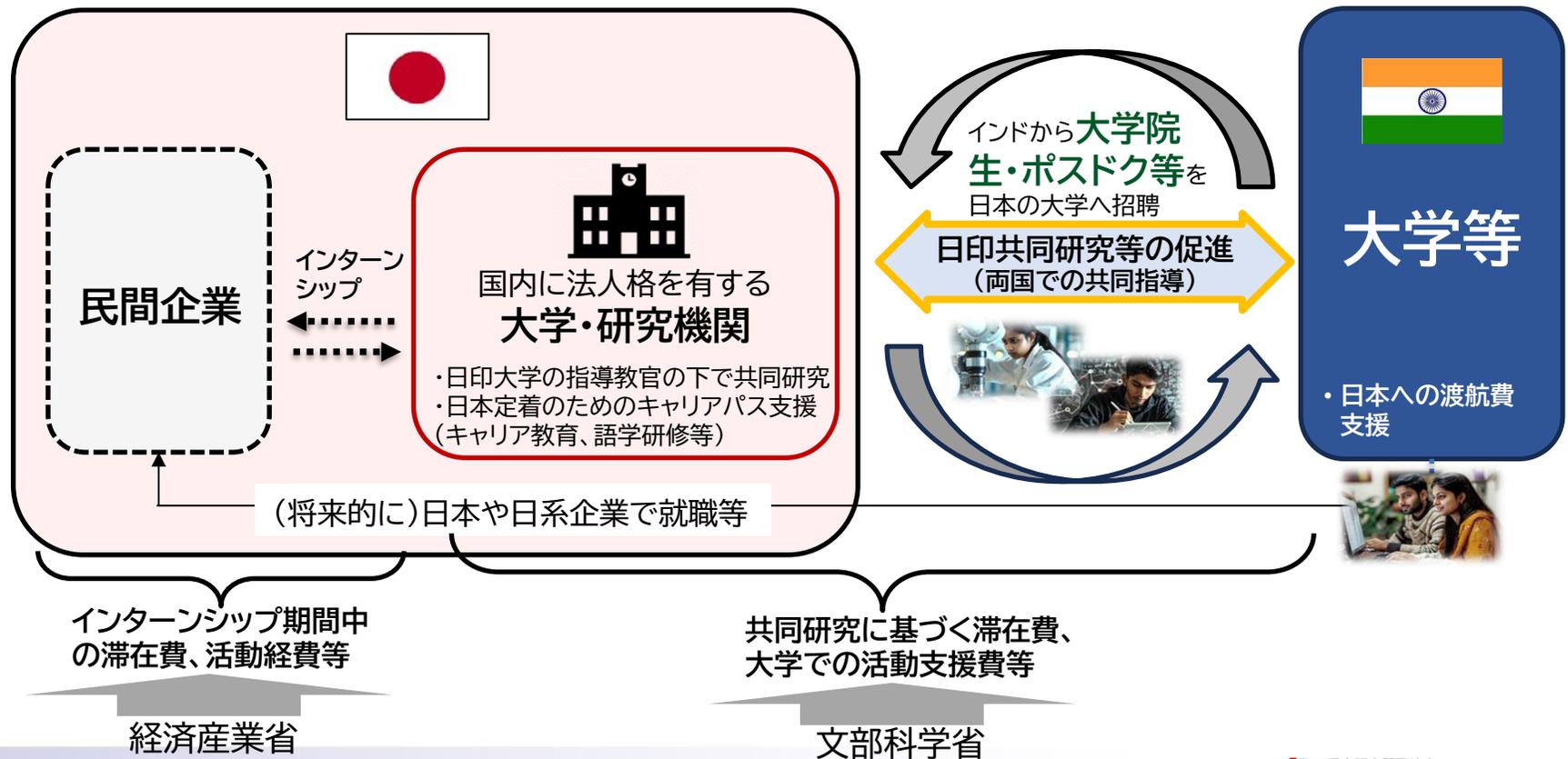
さくらサイエンスプログラム推進本部

# LOTUSプログラム 事業概要

# LOTUSプログラムの概要

## 【概要】

- 日印間の架け橋となる人材交流の促進とともに、我が国の科学技術イノベーション力の維持・強化、将来の人材投資の観点から、経済産業省と文部科学省で連携し、日印双方で次世代のイノベーション人材の育成・往来を促進
- 先端分野を主な対象として、インドの大学等に在籍する大学院生・ポストドクターを招へいし、両国による共同研究・共同指導を日本で実施するための研究滞在を支援



# 2026年度制度変更の主なポイント

## 1. 新タイプの追加

- 2025年度補正予算で、[ASPIRE](#) (先端国際共同研究推進事業) に「[招へい型公募](#)」が追加。ASPIREの国際共同研究・双方向交流などの特徴を加えた、[LOTUS \(ASPIRE型\)](#) として、従来のLOTUSに加えて募集を行う
- 現行の[LOTUS\(1年型\)](#)の支援内容も見直し(用途の拡大)

タイプ	<b>LOTUS(1年型)</b> «2025から継続のLOTUS Programme»	<b>LOTUS(ASPIRE型)</b> «2026から追加のASPIRE招へい型»
主な特徴	<ul style="list-style-type: none"><li>インド人学生等の短期間の日本滞在を通じ、日印共同研究の基盤を形成</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>インド人学生等の日本滞在を通じた日印共同研究の推進・成果創出を図り、国際頭脳循環を促進</li><li>研究費を措置</li></ul>

## 2. 採択件数の拡大

- 2026年度は、2つのタイプ合わせて[1,000件採択予定](#)

## 3. 募集時期の早期化

公募締切

[6月9日\(火\) 正午](#)

選考

6月～8月

採択決定、プレス発表

8月下旬以降

プロジェクト開始

[10月1日以降\(予定\)](#)

# 募集分野の変更

- 2026年度募集では、主たる募集分野を以下のとおり変更

## 2025年度募集

分野	領域
①AI・情報	「人間理解・尊重」、「多様性」、「持続可能」の理念のもと、Society 5.0の実現に向けたAI・情報研究
②バイオ	バイオエコノミー・持続可能な農業の推進、環境負荷の低減等に係るバイオテクノロジー研究
③エネルギー	カーボンニュートラルの実現に向けたエネルギー研究
④マテリアル	カーボンニュートラルや循環経済等に資するマテリアル研究
⑤量子	生産性革命の実現や国及び国民の安全・安心の確保に貢献する量子コンピュータや量子技術に係る研究や革新的な機能を有する量子物質の研究
⑥半導体	半導体産業基盤の強靱化に係る研究
⑦通信	デジタル社会に対応した次世代インフラの整備に資する情報通信技術の研究



## 2026年度募集

分野	領域
① AI・情報・知能ロボティクス	「人間理解・尊重」、「多様性」、「持続可能」の理念のもと、Society 5.0の実現に向けたAI・情報研究及び知能ロボティクスに関する研究
②バイオ	農業・食品産業等を含む多様な分野における持続可能なバイオエコノミーの推進、環境負荷の低減等に係るバイオテクノロジー研究
③ エネルギー	カーボンニュートラルの実現に向けたエネルギー研究
④マテリアル	カーボンニュートラル・循環経済の実現と産業競争力を支える革新的先端マテリアルの開拓に関する研究
⑤量子	生産性革命の実現や国及び国民の安全・安心の確保に貢献する量子コンピュータや量子技術に係る研究や革新的な機能を有する量子物質の研究
⑥半導体	半導体産業基盤の強靱化に係る研究
⑦ ネットワーク・通信	スマート社会・デジタルインフラを支えるコンピュータネットワーク基盤技術及び次世代情報通信技術、サイバーフィジカルシステムとその応用に関する研究

# 2つのタイプの概要

タイプ	LOTUS(1年型)	LOTUS(ASPIRE型)
目的・期待する効果	日印共同研究に基づき、インドの大学等に在籍する大学院生・ポストドクターを招へいし、両国による共同研究・共同指導を通じて日本でのキャリア形成を目指すとともに、国際頭脳循環を通じて、我が国の研究力、イノベーション力の強化を目指す	
	日本でのデータの取得や解析、日本の研究者や研究機関とのネットワーク構築により日印共同研究の基盤を形成	当該学生等の主体的な論文・学会発表など成果創出までを支援することで、国際頭脳循環を促進
招へい対象	インドの大学等の研究機関において大学院生(修士課程、博士課程等)又はポストドクターとして在籍している原則40歳以下の者	
実施期間	最長1年	最長3年
	※上記はJSTと各研究機関との契約期間の最長期間であり、招へい者の滞在期間はこれより短期間であることや複数回の往来があることも想定される	
対象分野	①AI・情報・知能ロボティクス、②バイオ、③エネルギー、④マテリアル、⑤量子、⑥半導体、⑦ネットワーク・通信 ※①～⑦に関連すればその他分野も応募可	
主な支援内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・招へい者の滞在費</li> <li>・招へい者の活動にかかる経費</li> <li>・機関活動費</li> <li>・間接経費(10%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・招へい者の滞在費</li> <li>・研究費</li> <li>・間接経費(30%)</li> </ul>
運用上の特徴	審査を経て以下が可能 <ul style="list-style-type: none"> <li>・LOTUS(ASPIRE型)への移行</li> <li>・LOTUS(1年型)の複数回実施</li> </ul>	終了時に事後評価あり 審査を経て以下が可能 <ul style="list-style-type: none"> <li>・招へい者の交代</li> </ul>

## 2025の支援内容

- インドからの招へい者の滞在費  
(24万円/月、最長12か月)
- インド側実施主担当者の滞在費  
(41.3万円、1か月のみ)
- 消費税相当額
- 一般管理費(直接経費の3%)



## 2026の支援内容

- インドからの招へい者の滞在費  
(24万円/月、最長12か月)
- **共同指導経費(上限50万円)**
  - 招へい者の活動に係る経費(学会発表等に伴う旅費、物品費等)
  - インド側実施主担当者の滞在費(日本の研究機関の旅費規程に基づく)など
- **機関活動費(上限30万円)**
  - 日本語・キャリア教育、招へい者受入に直接的に係る人件費 など
- 消費税相当額
- **間接経費(直接経費の10%)** ※非競争的資金

## その他の主な変更点

- 招へい者の活動に係る経費において、日本を起点とした活動であれば、インドを含む海外渡航費の計上も可能
- ※ イコールパートナーシップに基づく日印共同研究の観点から、招へいにかかるインド⇒日本(往復)の渡航費は原則インド側の負担とする
- 日本の研究機関とJSTとの間の契約形態を、実施協定から委託研究契約に変更

## 2026の支援内容

- インドからの招へい者の滞在費  
(24万円/月、最長36か月)
- 共同研究経費
  - ①招へいに係る研究費(上限150万円/年)
    - 招へい者の活動に係る経費(学会発表等に伴う旅費、物品費等)
    - インド側実施主担当者の滞在費(日本の研究機関の旅費規程に基づく)
    - **日本側実施主担当者や若手研究者などの日本⇒インドの旅費(往復)**
    - 機関活動費(日本語・キャリア教育、招へい者受入に直接的に係る人件費など)
    - 消費税相当額 など
  - ②招へい受入に係る初期環境整備費(上限125.8万円)
    - 招へい者受入に係る什器、PC、その他経費などを**初年度のみ計上可**  
(採択後の研究計画調整(PO承認)あり)
- 間接経費(直接経費の**30%**) ※競争的資金

## その他

- LOTUS(1年型)と同様に、招へい者の活動に係る経費において、日本を起点とした活動であれば、インドを含む海外渡航費の計上も可能  
※イコールパートナーシップに基づく日印共同研究の観点から、招へいにかかるインド⇒日本(往復)の渡航費はインド側の負担とする
- 日本の研究機関とJSTとの間の契約形態は委託研究契約

# 選考・推進体制

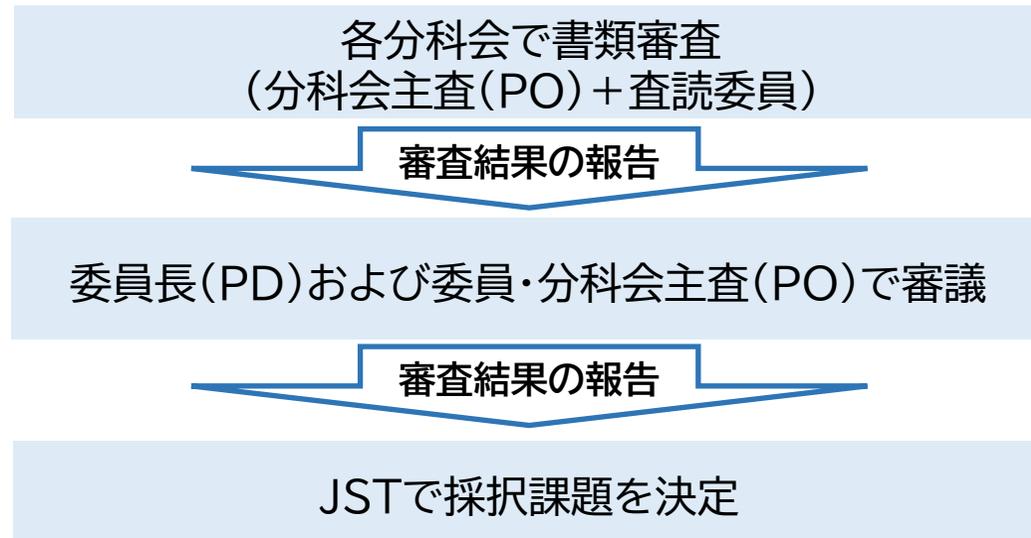
## ■インド若手研究人材招へい事業推進委員会 兼 運営統括(PD)・研究主幹(PO)

委員長 兼 PD 宝野 和博(物質・材料研究機構)

委員・分科会主査 兼 PO

- |                            |                   |
|----------------------------|-------------------|
| ①AI・情報・知能ロボティクス:高木 剛(東京大学) | ②バイオ:藤山 和仁(大阪大学)  |
| ③エネルギー:高田 保之(九州大学)         | ④マテリアル:北川 宏(京都大学) |
| ⑤量子:富田 章久(情報通信研究機構)        | ⑥半導体:池田 誠(東京大学)   |
| ⑦ネットワーク・通信:中尾 彰宏(東京大学)     |                   |

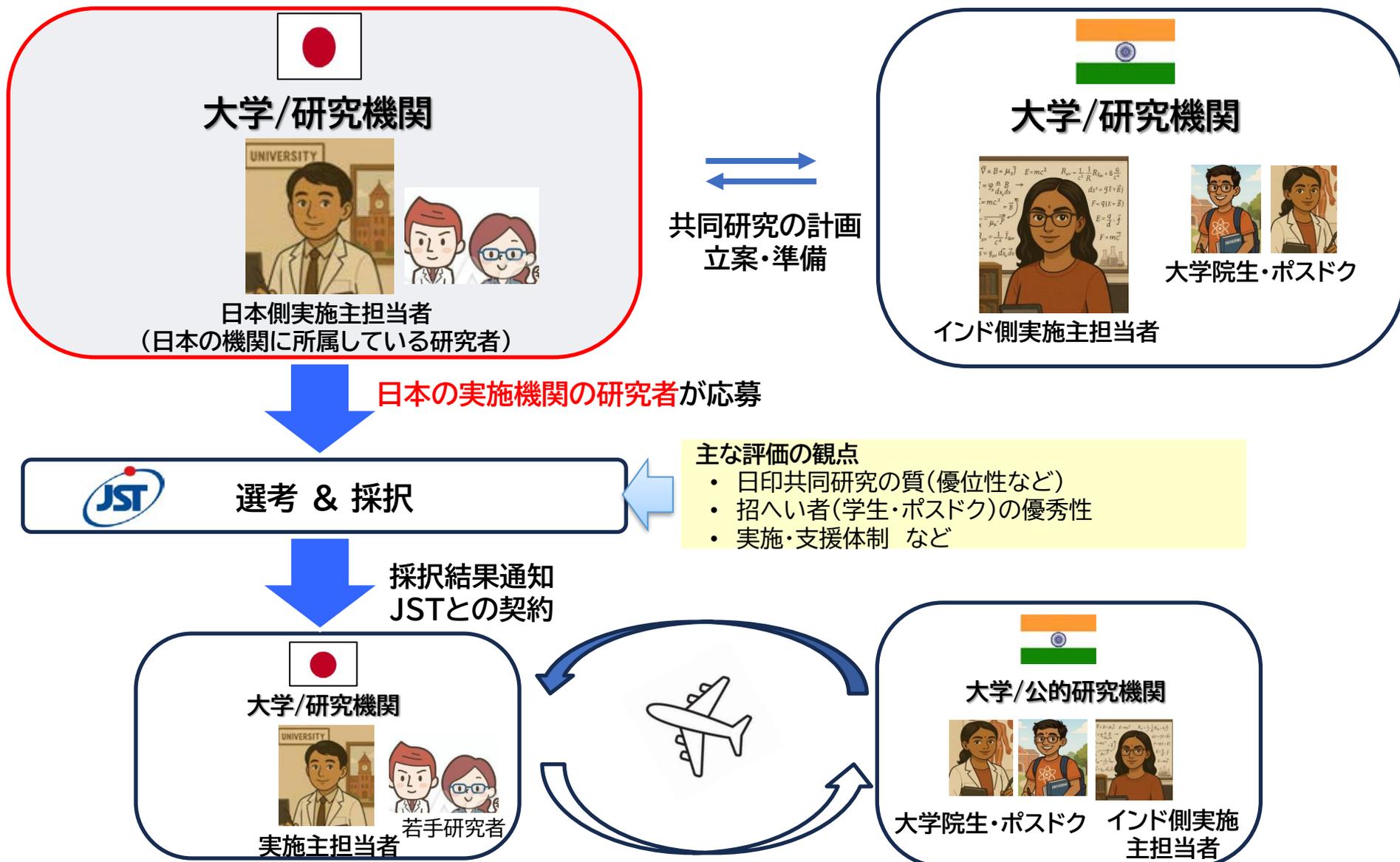
## ■ 選考・採択プロセス



(補足)

- 「その他」分野で応募された提案は、提案時に副分野として選択された上記7分野いずれかの分科会で評価
- 複数分野にまたがる提案で、副分野の選択がある場合は、主分野以外の分科会委員による評価あり

# 応募から実施までの概要



# 応募・実施のプロセス

①計画	<ul style="list-style-type: none"><li>日本側実施主担当者とインド側実施主担当者が招へい者を選定のうえ、研究計画(研究提案)を企画・作成</li></ul>
②申請	<ul style="list-style-type: none"><li>日本側実施主担当者がJSTに提案書を提出(e-Rad)</li></ul>
③採択	<ul style="list-style-type: none"><li>インド若手研究人材招へい事業推進委員会 兼 運営統括(PD)・研究主幹(PO)を中心とする外部有識者による評価を経てJSTが採択課題を決定</li></ul>
④契約	<ul style="list-style-type: none"><li>JSTと日本側実施機関との間で委託研究契約を締結</li></ul>
⑤実施	<ul style="list-style-type: none"><li>実施期間中、招へい者間のネットワーキング、インターンシップ促進等を実施</li><li>LOTUS-ASPIREでは、PD・POによる進捗確認、終了時に事後評価を実施</li><li>終了後、招へい者は同窓会組織であるLOTUS Programme Clubへ登録</li></ul>
⑥追跡調査	<ul style="list-style-type: none"><li>日本側実施機関による追跡調査(実施後5年間)。招へい者のその後のキャリアや日印共同研究の状況等の把握</li></ul>

# LOTUSプログラム 2026年度募集

# 2026年度募集スケジュール

公募開始	3月13日(金)
公募締切	6月9日(火) 正午
選考	6月～8月
採択決定、プレス発表	8月下旬以降
プロジェクト開始	10月1日以降(予定)

※遅くとも2026年度内に招へいを開始してください

公募締切の日時までには必ずe-Radを通じた応募手続きを完了するよう  
余裕をもって応募くださいますようお願いいたします。

# 応募・実施にあたっての留意点

## 本プログラムの位置づけ

- 本プログラムは、日本側PIとインド側PIの間での日印共同研究に基づき、その共同研究の一部を担う学生等が日本において行う活動に係る費用を支援するものです。
- 個人に対するフェローシップ事業ではありません。
- 本プログラムの趣旨を踏まえ、本人からの徴収および直接経費を原資とする授業料の負担は想定されません。
- 当該学生等はインドの大学の所属・身分のまま、日本における研究を実施します。従って、当該学生等がインドの大学の学位取得等のための規則に則った形で、計画を策定いただくようお願いします。
- 招へい期間は、共同研究の内容・進捗に応じて柔軟に設定されます。

## 日本側実施機関との連携

- 本プログラムの実施にあたっては、インド人学生等の日本滞在を伴うことから、採択後には、日本側実施機関と連携した受入れ体制構築が重要となります。
- 応募にあたっては、予め、所属機関に情報共有のうえ、採択後にスムーズな招へい者受入ができるよう、可能な範囲での事前調整をお願いいたします。
- 応募・選考状況は、所属機関の事務担当に情報共有することがあります。

# 応募要件

本プログラムでは、以下の通り応募要件を定めています。

## 申請者(日本側実施主担当者)

日本国内の研究機関に所属しており、研究代表者としてJSTとの委託研究契約の締結が可能な研究者

- 申請時点で、インド側研究機関と共同研究を行っている場合のみならず、これから共同研究を始める場合も可能です。
- LOTUS(1年型)及びLOTUS(ASPIRE型)への重複申請が可能です。(P24)
- 1人の応募者が複数の提案を申請することは可能ですが、招へい者1人あたり提案書1件としてください。
- 申請者の国籍は問いません。

# 応募要件

## 実施機関

- 大学、研究開発法人等国内に研究開発拠点を有し、日本の法律に基づく法人格を有している機関
  - 所属先のない個人、またはインド側研究機関等からの申請は受け付けません。
- 実施機関は、実施計画を円滑に遂行する体制とともに、招へい者に病気や事故が発生した場合における責任者、機関内・関係機関、インド側研究機関、JST 等への連絡体制・対応方法をあらかじめ明確にし、実際に招へい者に病気や事故が発生した場合は、責任をもって万全に対応することが求められます。
- 実施機関が実施計画を遂行するにあたっては、法令、JSTとの契約等を遵守し、責任を持って適切に遂行して下さい。社会通念上問題のある行動の発生防止に努めるよう、指導・管理へのご協力をお願いします。また、いずれの場所で実施する場合においても、実施計画が安全に遂行されるよう、実施機関の規程等に則って、安全・衛生管理を行って下さい。

# 応募要件

## 招へい者

インドの大学等の研究機関において大学院生(修士課程、博士課程)またはポストドクターとして在籍している、採択時点で原則40歳以下の者

- 申請時点で日本に滞在している方を招へい者とすることも可能です。
- 過年度または進行中の課題の招へい者と同一の招へい者に対しての申請も可能です。
- さくらサイエンスプログラムA/B/C/Dコースとの重複申請は可能ですが、同一招へい者について招へい期間を重複して実施することはできません。
- 招へい者の国籍は問いません。

## インド側研究機関

- インド側研究機関は、インド側実施主担当者を中心として、実施機関と連携し、実施計画を円滑に実施する共同研究体制が構築されていることが望まれます。
- さらに、訪日期間中に招へい者に病気や事故が発生した場合において対応する責任者、実施機関等からの連絡体制・対応方法をあらかじめ明確にし、実際に招へい者に病気や事故が発生した場合は、責任をもって万全に対応することが求められます。

# 選考の観点

選考は、主に以下の観点に基づき総合的に実施します。

- 提案された研究活動がプログラムの趣旨に合致し、プログラム等が目指す成果の創出が期待できること
- [LOTUS(1年型)] 提案された研究活動が、関連する研究分野・領域において、実施する意義が明確であること
- [LOTUS(ASPIRE型)] 提案された研究活動が、関連する研究分野・領域において、独創性・優位性を有していること
- 実施期間内に達成する目標、実施計画及び予算計画が具体的かつ適切であること
- 提案内容の遂行に必要な活動実績及び責任能力を有していること
  - 日本側実施主担当者、インド側実施主担当者は提案された共同研究の遂行及び共同指導に十分な資質を備えているか
  - 招へい者は研究活動の遂行に十分な資質を備えているか

### 滞在費:

200,000円／月に加えて招へい者の滞在に必要な1ヶ月あたりの海外旅行傷害保険の加入経費を加え費用240,000円／月とします。

### 共同研究経費:

招へい者の招へいがある年度のみ申請可能です。初年度(2026年度)及び2029年度の上限は750,000円、2027年度及び2028年度の上限を1,500,000円とします。

- 複数回招へいを行う際の招へい者の日本からインドへの往復旅費(原則1年に1往復まで)、共同研究に基づく招へい者の学会発表等に伴う国内旅費、招へい者の研究に伴う国内旅費、インド側実施主担当者の滞在費、共同研究に基づく日本側実施主担当者・学生等のインドへの渡航・滞在費、初期環境整備費等を共同指導経費として支出可能です。
- 原則として初回招へいの際のインドから日本への渡航費、最終招へい時の日本からインドへの渡航費、並びにインド側実施主担当者の日本への渡航費への支出は認められません。
- 招へい者の滞在がない年度については共同研究経費の計上は認められません。

### 初期環境整備費:

初年度(2026年度)のみ、上限を1,258,000円として申請可能です。招へい者受入にかかる什器、PC、その他経費等を初期環境整備費として支出可能です。申請を希望される場合にはe-Radに申請金額、用途等を記載してください。

**間接経費:**原則直接経費の30%を上限として措置されます。

### 滞在費:

200,000円／月に加えて招へい者の滞在に必要な1ヶ月あたりの海外旅行傷害保険の加入経費を加え費用240,000円／月とします。

### 共同指導経費:

研究期間を通しての上限を500,000円とします。複数回招へいを行う際の招へい者の日本からインドへの往復旅費(原則1往復まで)、共同研究に基づく招へい者の学会発表等に伴う国内旅費、招へい者の活動に係る消耗品費、インド側実施主担当者の滞在費等を共同指導経費として支出可能です。

- 原則として初回招へいの際のインドから日本への渡航費、最終招へい時の日本からインドへの渡航費、並びにインド側実施主担当者の渡航費への支出は認められません。

### 機関活動費:

研究期間を通しての上限を300,000円とします。招へい者の日本語・キャリア教育、招へい者受入に直接的に係る人件費等を機関活動費として支出可能です。

※招へい者の滞がない年度については共同指導経費及び機関活動費の計上は認められません。

### 消費税相当額:

滞在費、共同研究経費、機関活動費の合計の10%を消費税相当額として計上可能です。

### 間接経費:

原則直接経費の10%を上限として措置されます。

# 利益相反マネジメント

公正で透明な評価を行う観点から、日本側実施主担当者に関して、以下に示す利害関係者は選考に関与しません。

- a. 日本側実施主担当者と親族関係にある者。
- b. 日本側実施主担当者と大学等の研究機関において同一の学科、専攻等に所属している者又は日本側実施主担当者が所属している大学等若しくは大学等を経営する法人の役員その他経営に関与していると思われる者及び当該法人を代表して対外的に活動する者。
- c. 日本側実施主担当者と同一の企業に所属している者又は日本側実施主担当者が所属している企業の親会社等にあたる企業に所属している者。
- d. 日本側実施主担当者と緊密な共同研究を行う者。(例えば、共同プロジェクトの遂行、共著研究論文の執筆、同一目的の研究メンバー、あるいは提案者の研究課題の中での共同研究者等をいい、提案者と実質的に同じ研究グループに属していると考えられる者)
- e. 日本側実施主担当者と密接な師弟関係あるいは直接的な雇用関係にある者。
- f. 日本側実施主担当者の研究課題と学術的な競争関係にある者又は市場において競争関係にある企業に所属している者。
- g. その他JST が利害関係者と判断した者。

# 申請手順

## 申請書類の様式

- 提案書様式はLOTUSプログラムウェブサイトからダウンロードしてください。

<https://www.jst.go.jp/program/india/call/>

提案書様式は「LOTUS (ASPIRE型)」「LOTUS (1年型)」共通様式です。

- 2025年度LOTUSプログラムからの移行申請の場合:「移行申請専用提案書様式」をご利用ください。

※日本側実施主担当者及び招へい者が同一のときのみ、進行中の2025年度LOTUSプログラムから2026年度「LOTUS(ASPIRE型)」「LOTUS(1年型)」への移行申請が可能です。

移行申請の提案については本提案書及び以前提出された2025年度LOTUSプログラムへの提案書を合わせて審査を行います。

- 新規申請の場合:「新規申請専用提案書様式」をご利用ください。

※ 新規申請および移行申請の間で、審査に有利・不利となることは一切ありません。

# 申請手順

## 【LOTUS(ASPIRE型)及びLOTUS(1年型)に申請する場合】

- e-Radから公募名「[2026年度「先端国際共同研究推進事業 ASPIRE招へい型\(LOTUS\(ASPIRE型\)\)](#)」に申請してください。
  - ※ 申請書の提出をもって両プログラムへの提案があったものとし、両プログラムで選考を行います。締切日以降、事務局にてe-Rad上でのLOTUS(1年型)への代理申請/受理手続きを行います。

## 【LOTUS(ASPIRE型)のみに申請する場合】

- e-Radから公募名「[2026年度「先端国際共同研究推進事業 ASPIRE招へい型\(LOTUS\(ASPIRE型\)\)](#)」に申請してください。
  - ※申請書 1.基本情報【提案タイプ】にて「LOTUS(ASPIRE型)のみ申請する」にチェックをいれてください。

## 【LOTUS(1年型)のみに申請する場合】

- e-Radから公募名「[2026年度「インド若手科学頭脳循環プログラム\(LOTUS\(1年型\)\)](#)」に申請してください。
  - ※ 申請書 1.基本情報【提案タイプ】にて「LOTUS(1年型)のみ申請する」にチェックをいれてください。

本公募に対してのお問い合わせはこちらまでメールでお願い致します。



## 更新履歴

### As of 24-Mar:

スライド8 誤植修正(LOTUS(ASPIRE)型 最長36ヶ月)

スライド13 誤植修正(公募開始日 3月13日)